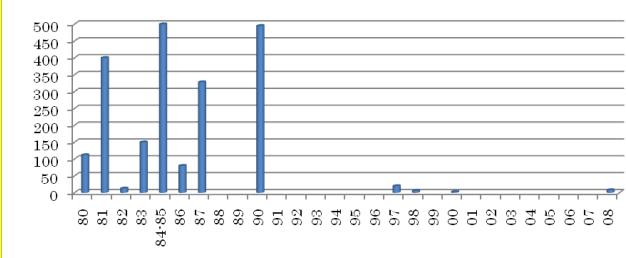


希少植物を守るための あんなことこんなこと



日本産維管束植物の絶滅危惧種数

絶滅		Ex	33 (4)	
野生絶滅		Ew	8 (1)	
絶滅危惧	絶滅危惧I類		1014 (142)	1690 (199)
	IA類	CR	523 (77)	
	IB類	EN	491 (65)	
	絶滅危惧II類 VU		676 (57)	
準絶滅危惧		NT	255 (21)	



レブンアツモリソウの盗掘状況
1990年頃まで園芸目的の盗掘がひどく希少化の大きな要因となった

レッドデータリスト2007(環境省)
カッコ内はラン科の種数

現在、日本の野生植物の5種に1種が絶滅の危険にさらされています。絶滅危惧植物のレブンアツモリソウの研究を通して、保全していく上で、考えるべきことを紹介します。

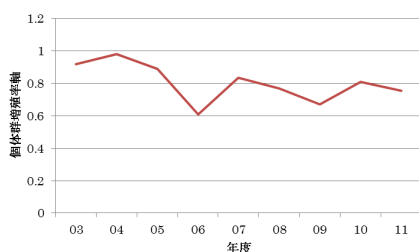
講師 河原孝行 (北海道支所、現四国支所)

レブンアツモリソウの保全研究から保全にあたって考えるべきこと

環境省公害防止等試験研究により、北海道大学・熊本大学・礼文町高山植物培養センターと協力しながら、盗掘により希少化したランの1種レブンアツモリソウの保全研究を進めてきました。

1990年以降保護区の設置、監視体制の強化などにより盗掘は少なくなりましたが、この10年間は個体数が減少傾向にあることがわかりました。これには攪乱の減少による更新適地の減少や春先の水枯れ・遅霜による気象害、ススキ・ササなどの拡大が大きく影響しているようです。ススキの刈取りにより光条件を改善することで開花数の増加がみられました。

レブンアツモリソウの発芽・生育に不可欠な共生菌やそれとかわる他の植物、受粉に必要なニセハイイロマルハナバチとそれを維持するための植物群、と生態系のネットワークを意識しながら保全策を施していくことが重要であることがわかってきました。地元の人や行政・研究に携わる人の情報共有も保全に欠かせない要素です。



左:レブンアツモリソウの個体群増殖率の年変動

1より小さな値は個体群が減少傾向にあることを示す

右:レブンアツモリソウの保全で考慮すべき要素

